

『教育学部研究論集』の創刊にあたって

信州大学教育学部長 岩永恭雄

今年度から、『信州大学教育学部紀要』が『信州大学教育学部研究論集』と名称を変え、その編集方針も一新されて、このたび創刊号がここに出版されることになりました。この研究論集は〈学術論文〉と〈研究報告あるいは実践報告等〉の2つの部分から成り、〈学術論文〉は全てレフェリー及び編集委員会の審査を経て掲載されることが『教育学部紀要』と大きく変わったところです。また、研究報告や実践・実験の報告がこの研究誌に掲載される理由は、教育の現場での様々な実践活動が研究に昇華される可能性を持っているからです。この報告の提出原稿についても、編集委員会による校閲と審査を経て、質の高いものにする努力がなされています。

学問の研究に限っても人文科学・社会科学・自然科学から工学までといった多様な研究領域の教員、さらには芸術・スポーツを専門とする教員が所属する教育学部で、このような研究誌を発行することの困難さは想像以上のものであり、創刊号が出版の運びとなるまでの編集委員会の努力は高く評価されるものです。多岐に渉る研究分野があつて、それらの研究対象・研究内容・研究目的が違っていても、「研究」という人間が行う知的作業のあるべき姿には、研究者共通の感覚が基底にあつて、その成果を公表する〈学術論文〉には新しい発見、著者（研究者）によるオリジナルな発想や新しい提案あるいは新しく意義のある問題提起とその解答が記載されていることは必須条件であり、主張や考察には論理性と高い客観性が要求されます。この研究者としての感覚と観点を尊重し重視して、編集委員会の作業が進められたことにより、この研究論集の出版が可能になったものと確信しています。研究誌の出版を高いレベルで維持していくためには、質の高い良い論文の投稿が必要であることは勿論ですが、研究者として高い資質を持った編集委員による優れた編集作業が成されなければなりません。この研究誌が号を重ねる毎に学問的レベルの高いものになり、教育学部教員の研究のレベルアップに繋がることを期待するものです。